

エキナセア パウワウ・シリーズ

学名: *E. purpurea*

種子粒数の目安: 260-270 粒/グラム

開花に関する重要な特性:

- 初年開花が可能なペレニアル品種
- 日長反応について: 13 から 14 時間の比較的、浅い長日条件で最も早くまた揃って開花する中間植物である
- 低温処理の有無: 低温処理(バーナリゼーション)は不要だが、最低 10 週、低温処理をすることで 2、3 週開花が早まる効果がある
- 開花時期(北半球の中・高緯度条件):
 - 年初(1 月頃)播種による春生産では、6 月中旬から下旬に開花
 - 夏期(7 月-9 月)の播種による越冬生産では、5 月下旬から 6 月上旬に開花。さらに翌年も開花する

プラグ生産ステージ

培地

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.8 から 6.2、また培地の初期養分は中庸(0.75mmhos/cm)とする

播種

288 穴、あるいはそれよりも大きなサイズのトレイに 2 粒播きをする。バーミキュライト等で覆土することが望ましい

ステージ 1 - 播種後 4、5 日で発芽がはじまり、約 14 日間つづく

地温: 21-24°C が適正

光条件: 条件としてはあった方がよい

水分: ステージ 1 では、水分レベルをややウエット (level 4) に維持

湿度: 幼根が発生する頃までは相対湿度を 95%+ で維持する

ステージ 2

地温: 21-22°C が適正

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: 水分レベルを下げ、ややウエット(level 4)から中 (level 3) の状態にして、根の培地中での生長を促す

肥料: レート 1(100ppm(N)以下、EC を 0.7mS/cm 以下)の濃度で、リン酸の低い硝酸態の肥料を与える

ステージ 3

地温: 20 から 21°C が最適条件

光条件: 26,900 ルクス(2,500 f.c.)を上限とする

水分: かん水の間に培地の表面が明るい茶色に乾くような、少し乾燥した状態(level 2)を維持する。状況を見ながら、level 2 から level 4 の範囲でドライとウエットを繰り返しながら管理を続ける

肥料: 肥料の濃度をレート 2(100-175ppm(N)、EC 値 0.7-1.2mS/cm(1:2))に上げる。生長が遅いようであれば、株を見ながらアンモニア態と硝酸態をバランスよく交互に与える。培地は、pH を 5.8 から 6.2、また EC を 1.0-1.5mS/cm(2:1)で維持する

PGR(矮化剤): 矮化剤は不要である

ステージ 4

温度: 18-19°C が最適条件

光条件: 温度条件が管理できるのであれば、53,800 ルクス(5,000 f.c.)まで可能

水分: ステージ 3 と同様

肥料: ステージ 3 と同様

鉢上げから出荷まで

コンテナサイズ

10-11cm: 1 プラグ移植/ポット

15-18cm: 1 プラグ移植/ポット

用土

水はけがよく、ピート主体の新しい用土を使用。培地の pH は 5.5 から 6.2、また初期養分は中庸(EC、0.75mmhos/cm)とする

温度

昼間温度: 15-24°C

夜間温度: 10-15°C

※ 株の生長を維持するためには、昼間の平均温度を 13°C 以上とする。それ以下では生長を休止する

照度

適正な温度域で管理されている限り、できるだけ高い照度を維持する

日長時間との関係

この品種は中間植物(intermediate-day plant)であり、日長が 13 から 14 時間の条件で早くまた揃って開花する。12 時間ないしそれよりも短い条件では、着蕾は誘起されるが、花柄の伸展や展開が遅れる可能性がある。逆に、16 時間ないしそれよりも長日の条件(暗期中断を含む)では、開花は散発的となり、予測不能な結果となる。電照による促成をかける場合は、16 時間の長日条件や暗期中断ではなく、かならず 14 時間の条件で設定する

※ 開花生理として、一度開花がはじまると日長時間には関係なく開花が持続する

かん水

培地の水分を切らさないように注意する。過湿、過度の乾燥はともに避ける

※ 越冬生産の作型では、寒冷期においては、根が傷んで病気が発生しないよう、株を乾燥気味の状態で維持する

肥料

レート 3(175-225ppm(N), EC は1.2-1.5mS/cm)の肥料を与える。主として、リン酸分が少なくカリウムの多い、硝酸態の肥料を用いる。pH は 6.0 から 6.5、また EC は 1.5-2.0 mS/cm とする

※ レート 2(100-175ppm (N), EC 値 0.7-1.2mS/cm)の肥料で頻度を上げる方法も可能であるが、いずれの場合も上記の pH と EC の範囲を維持する

PGR(矮化剤)

丈の調整: エキナセナは、B ナイン(2,500ppm)とサイコセル(500-750ppm)のタンクミックスによく反応する植物である。矮化剤の散布は、移植後約 4 週頃に茎が伸びはじめるタイミングで行う。必要に応じて、2 週間くらいにもう一度散布する

その他の処理方法: B ナイン(3,500-5,000ppm)あるいはスマジック(20ppm)による 1、2 回の散布も効果が確認されている

※ 矮化剤の濃度を高くしすぎると、株揃いに影響を及ぼすことがあるので注意が必要。基本的には、低濃度による複数散布の方法を推奨している

ピンチ

ピンチは不要である

スペーシング

葉と葉が接触しはじめたら株間のスペースをとる

平均的な生産期間

移植から開花まで: 13 から 17 週

※ ただし、適正な日長と 15 から 20°Cの温度域で管理された場合

播種から開花まで: 18 から 23 週

※ 上記同様、適正な日長と 15 から 20°Cの温度域で管理された場合

年初播種(春生産): 1 月播種では、6 月の中旬から下旬に自然に開花する

越冬生産: 夏期(7 月から 9 月上旬)の播種では、5 月の下旬から 6 月上旬に自然に開花する。越冬させる作型では、いくぶん早く開花し、分枝もよく花茎も多少短く仕上がる

病例等

害虫: アブラムシやファンガスなどからの防除が必要

病気: ウドンコ病に注意する

植え付けする際のポイント

- 初年開花の宿根品種で耐寒性がある(USDA ゾーン 3、マイナス 35-40°C)
- 定植は日あたりのよい場所に、降霜の時期を過ぎた後におこなう
- 定植時の株間は 30 から 45cm。水はけのよい土に植えつける
- エキナセアは、根が活着した後、乾燥にとっても強い品種です
- 草丈は従来の実生品種よりも低く、概ね 40 から 50cm ほど。また株張は初年度で直径 50 から 55cm

EC 値について: EC(電気伝導度)は、ビート主体の北米の用土を算出の基準としているので、条件によっては適合し得ない場合があります。

注意点:

- 同品種を生産するにあたって、ここで示されている栽培情報は基本的な参考資料としてご利用ください。生産された植物は、気候条件や地理的な緯・経度、また作型の時期、ハウスの環境によって結果が異なることがあります
- 殺虫・殺菌剤、また矮化剤の使用についての記載はあくまでもガイドラインであり、必ず使用方法を十分にまた正しく読み、使用者の自らの責任のもとでそれに則った正しい使用方法とるようにしましょう